

令和7年度伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム

第1回会議次第

日時：令和7年7月2日（水）10:00～

場所：富岡町文化交流センター 小ホール

1 開会

2 あいさつ

3 報告

令和6年度伝承者育成講座の実績について

4 協議

（1）令和7年度伝承者育成講座の実施について

（2）令和7年度伝承者育成プログラムについて

（3）その他

5 事務連絡

6 閉会

令和7年度伝承者育成プログラム検討プロジェクトチームメンバー

(五十音順)

	名 前	備考
有識者	東京大学大学院情報学環・学際情報学府准教授 東日本大震災・原子力災害伝承館上級研究員 開沼 博 氏	
	東北大学災害科学国際研究所准教授 佐藤 翔輔 氏	
	福島大学教育推進機構 高等教育企画室准教授 前川 直哉 氏	座長
語り部団体	東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会長 青木 淑子 氏 (NPO 法人 富岡町3・11を語る会代表)	
	東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議副会長 大谷 慶一 氏 (いわき語り部の会会長)	
報道機関	福島民友新聞社 論説副委員長 菅野 篤司 氏	
	福島民報社双葉郡統括兼双葉南支局長 鈴木 仁 氏	

令和6年度実績報告について

1 伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム会議

- ・第1回 令和6年5月17日（金）富岡町文化交流センター 小ホール
- ・第2回 令和6年10月17日（木）※早急な議案が無かったため中止
- ・第3回 令和7年1月16日（木）双葉町産業交流センター 大会議室

2 伝承者育成講座（全4回） 修了者14人

講座	実施日	場 所	受講生	主な内容
第1回	7月20日（土）	富岡町文化交流センター	17人	・語り部の役割 ・ワークショップ
第2回	9月28日（土） ～29日（日）	フィールドワーク（大熊町・いわき市） 双葉町産業交流センター	14人	・フィールドワーク ・話し方講座 等
第3回	11月30日（土）	双葉町産業交流センター	9人	・プレゼンテーションスキルアップ
第4回	令和7年 2月8日（土）	富岡町文化交流センター	14人	・成果発表

3 伝承者育成英語講座（全4回） 修了者3人

講座	実施日	場 所	受講生	主な内容
第1回	7月20日（土）	富岡町文化交流センター	3人	・原稿確認 ・スピーチ練習
第2回	9月25日（水）	オンライン講座	3人	・スピーチ改善点 ・スピーチ練習
第3回	11月20日（水）	対面・オンライン講座	3人	・スピーチ改善点 ・スピーチ練習
第4回	令和7年 2月8日（土）	富岡町文化交流センター	3人	・成果発表

4 語り部県内派遣

派遣案内チラシを義務教育課、高校教育課等を通して、県内の小中学校・義務教育学校、各県立・私立学校へ配付し、語り部の活用を依頼した。

5 語り部県外派遣

派遣者数44人

※令和6年度語り部県外派遣の実績について

令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成講座 開催要項
(次世代へつなぐ震災伝承事業)

1 事業の目的

東日本大震災及び原子力災害の発生から14年が経過し、年々風化が進行する中、語り部の伝承活動の継続・拡大の重要性は一層増しています。その一方で、後継者の育成が課題となっていることから、複合災害の記憶と教訓を伝える語り部等を育成するため、伝承者育成講座を実施します。

2 主 催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

3 日程・内容

○開講式・第1回伝承者育成講座

【日時】令和7年7月19日（土）10：20～16：30（受付10：10～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】開講式

1時間目「語り部の役割」

2時間目「地域の思いの共有ワークショップ」

3時間目「よくある質問・震災知識についてのワークショップ」

○第2回伝承者育成講座（1日目） ※宿泊については希望される方のみ。

【日時】令和7年9月27日（土）9：30～16：30（受付9：15～）

【場所】集合場所：双葉町産業交流センター 駐車場

・フィールドワーク訪問地 大熊町中間貯蔵施設・いわき市薄磯地区

※バスでの移動となります。

・意見交換会 東日本大震災・原子力災害伝承館 研修室（予定）

【内容】フィールドワーク・意見交換会

○第2回伝承者育成講座（2日目）

【日時】令和7年9月28日（日）9：00～14：45（受付8：50～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室（予定）

【内容】1時間目「伝わりやすい話し方講座」

2時間目「プレゼンテーションスキルアップ」

○第3回伝承者育成講座（本講座の受講生で希望者のみ）

【日時】令和7年11月29日（土）10：30～14：30（受付10：20～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室（予定）

【内容】「プレゼンテーションスキルアップ」

○第4回伝承者育成講座・修了式

【日時】令和8年2月7日（土）10：00～14：00（受付9：45～）

【場所】双葉町産業交流センター 大会議室 等（予定）

【内容】成果発表・修了式

同日の午後に開催する第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行います。

○その他

- (1) 全講座を受講した方に修了証書が授与されます。また、修了された方は、県外語り部派遣者に登録されます。
- (2) 第2回伝承者育成講座は2日間となります。宿泊については、希望される方のみとなります。なお、宿泊費については受講者負担となりますことを予めご承知おきください。宿泊先については、双葉町内のホテル（シングル8,000円程度）を予定しておりますが、詳細につきましては、受講生決定通知の際にお知らせいたします。
- (3) 全日程参加を前提としますが、個別の事情がある方は事前に事務局にご相談ください。

- 4 受講対象 ・一般の方（高校生以上）で、震災伝承活動に関心のある方
 ・現在（過去も含む）、震災伝承者活動をされている方
 ※御不明な点があれば、事務局までお問い合わせください。

- 5 募集人数 15名程度

- 6 受講料 無料（交通費・宿泊費は各自で御負担いただきます）

7 申込方法

- (1) 締切日 令和7年6月25日（水）
- (2) 方 法 受講希望者は、「(様式) 令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成講座 受講申込書」に記入し、申込先へメールで送付してください。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7404）

8 受講者の選考

受講申込みが募集定員を大幅に超えた場合は、書類審査より選考します。
決定後、7月4日（金）までに申込者全員に選考結果をお知らせします。

令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成中国語講座 開催要項
(次世代へつなぐ震災伝承事業)

- 1 事業の目的 中国語圏からの来県者の増加に伴い、震災関連のインバウンド需要の増加が見込まれることから、福島県の未曾有の複合災害の記憶と教訓を伝えることを目的として、中国語で講話ができる語り部を育成するため。
- 2 主催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
- 3 日程・内容 令和7年度伝承者育成講座 開催要項（日本語）と同様
- 4 受講対象 震災語り部を希望する県内在住の中国語圏出身の方（講座の日本語が理解できることが条件）及び中国語が話せる方
- 5 募集人数 2～3名
- 6 受講料 無料（交通費・宿泊費は各自で御負担いただきます）
- 7 申込方法 (1) 締切日 令和7年6月25日（水）
(2) 方 法 受講希望者は、「（様式）令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害体験伝承者育成中国語講座受講申込書」に日本語で記入し、申込先へメールで送付してください。

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

（事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7404）

- 8 受講者の選考 受講申込みが募集定員を大幅に超えた場合は、書類審査より選考します。決定後、7月4日（金）までに申込者全員に選考結果をお知らせします。

令和7年度福島県東日本大震災・原子力災害伝承者育成英語講座 開催要項 (次世代へつなぐ震災伝承事業)

- 1 事業の目的 東日本大震災及び原子力災害の発生から14年が経過し、年々震災学習等に関するインバウンドのニーズが高まっている現状から、海外に向けた震災伝承に対応するため、本講座を実施します。
- 2 主 催 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
- 3 日程・内容
 - 第1回講座
【日時】令和7年7月19日(土)
受講生①の講座：10:30～11:30
受講生②の講座：12:30～13:30
受講生③の講座：14:00～15:00
受講生④の講座：15:30～16:30
※講座は講師と受講生のマンツーマン式で行います。
【場所】双葉町産業交流センター 小会議室(予定)
【内容】「翻訳原稿の確認・音読講座①」
 - 第2回講座
【日時】令和7年9月27日(土)
受講生②の講座：10:00～11:00
受講生③の講座：13:00～14:00
受講生①の講座：14:30～15:30
【場所】東日本大震災・原子力災害伝承館 研修室(予定)
【内容】「翻訳原稿の音読講座②」
 - 第3回講座
【日時】令和7年11月1日(土)
受講生③の講座：10:00～11:00
受講生①の講座：13:00～14:00
受講生②の講座：14:30～15:30
【場所】双葉町産業交流センター 小会議室(予定)
【内容】「翻訳原稿の音読講座③」
 - 第4回講座
【日時】令和7年12月6日(土)
受講生①の講座：10:00～11:00
受講生②の講座：13:00～14:00
受講生③の講座：14:30～15:30
【場所】双葉町産業交流センター 小会議室(予定)
【内容】「翻訳原稿の音読講座④」
 - 第5回講座・修了式
【日時】令和8年2月7日(土) 10:00～12:00
【場所】双葉町産業交流センター 小会議室(予定)
【内容】成果発表
※修了式は、同日の午後に開催する第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議の冒頭に行います。

- 4 受講対象 ○東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員で、おおむね語り部歴3年以上の方または伝承者育成講座の修了者で受講を希望される方。
○「津波による被災」「原発事故による長期避難」「復興の取組」等のいずれかのテーマで話せる方。
- 5 募集人数 3名
- 6 受講者選考方法 語り部団体から、「(様式) 令和7年度東日本大震災・原子力災害伝承者英語講座受講希望者推薦書」により、推薦があった候補者の中から事務局で選出し被推薦者に打診します。被推薦者から承諾を得た後、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議(伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム)の承認を受けて、受講生を決定します。選定結果については、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議登録団体等へメールでお知らせします。
- 7 受講料 無料
(但し、講座会場までの交通費・昼食代は、受講者各自で負担いただきます)

8 全体スケジュールイメージ

事前準備(4月～6月)	講座受講(7月～2月)	修了後(R8年度～)
①自身の語りを日本語の原稿に作成(30分程度の原稿)し、講師に提出する。 ②講師から英訳された原稿を事前に受け取る。	○全5回講座、講師と受講生のマンツーマン式。 (「3. 日程・内容のとおり」) ※次回の講座まで、各自、自主練習(翻訳原稿の音読練習)を行う。	○ネットワーク会議各団体や伝承館等のインバウンド対応。

9 その他

- (1) 本開催要項は、令和7年4月1日(火)時点の想定であり、今後、講師の意見・参加者の状況に応じて変更することがあります。
- (2) 講師・受講生の都合に応じてオンライン講座及び受講生の進捗に応じて補習(対面・オンライン)についても検討いたします。
- (3) 講師の他に英語、プレゼンテーションに詳しいコーディネーターによるアドバイスも随時、実施予定です。
- (4) スピーチの内容を留学生等の外国人に聴講してもらう機会を設けるよう調整します。
- (5) 本講座は、ご自身の語りの内容を英語でスピーチできることを意図しており、英会話の習得が目的ではないことをご承知おきください(講話における質疑応答は、引き続き、通訳を介することを前提としています)。
- (6) 問い合わせ先
東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議
(事務局：福島県文化スポーツ局生涯学習課 TEL：024-521-7404)

メール：f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp

・令和7年度 伝承者育成講座

東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会員および新規語り部希望者を対象に、多様な語りと知識を学び、福島への自身の想いを語るための研修を行います。

※講師に関しては県各課事業の精査及び伝承者育成PTの検討を加え調整します。

全体コーディネート：福島大学准教授 前川 直哉氏

回	項目	目的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第1回 7月19日 (土) 双葉町産業交流センター 大会議室	開講式					
	語り部の役割 (90分) 10:30～ 12:00	先輩語り部の講話を聴き、これまでの自身の活動を振り返ることで、語り部の役割についての理解を深め、自身が語ることの意義を理解することができる。	先輩語り部の実演を見学し、限られた時間の中で受講生に伝えるべきことをどのようにして語り、伝えようとしているかを習得します。 ＜内容案＞ ①震災講話を聴く ②講義(語り部の役割の本質的な理解) ③質疑応答	ネットワーク会議会長	・語り部としての心構えの習得 ・伝えるべき事項(震災の実相)の表現方法の習得 ・復興への挑戦からその「思い」を知る。	・講演資料(講師が準備の有無を確認)
	地域の想いの共有 ワークショップ (75分) 13:00～ 14:15	語り部活動の課題と意義を整理し、語り継ぐ内容の本質について自分自身で理解し、言葉にすることで、「ふくしま震災等語り部」として自身の思いや伝えたいメッセージを具現化することができる。	未曾有の複合災害と、そこからの復興に向け果敢に挑戦する人々との意見交換を通して、自身が伝えたいメッセージの具現化と、語り部の取組の本質について理解を深めます。 ＜内容案＞ ①円卓等での相互インタビュー ②意見交換による深掘り ※「気づき」を持たせるヒントの与え方	復興に向け果敢に挑戦する人々 富岡町3・11を語る会代表 青木淑子氏、 福島大学准教授 前川 直哉氏 (予定)	・ふくしま震災等語り部としての意識を、より高める ・自身の想いを伝えるための創意工夫と他の語り部との相違点	・福島のある日からいま ・防災手帳
	よくある質問・震災知識についてのワークショップ (120分) 14:30～ 16:30	多くの人に知ってほしい福島のおかし、いま、未来について、事実が伝わっていないことや、伝わりづらいことを再認識することができる。	自身の語りの幅を広げるため、それぞれの経験や知識などを共有する機会を設けます。(地震・津波・原発事故・避難生活・放射線の基礎等) ＜内容案＞ ①聴講者からの「よくある質問」に答える(各グループ) 班編制4人を上限 ②フィールドパートナーの話 ③意見交換(各グループ) ※「気づき」を持たせるヒントの与え方 ※情報を収集し、多様性を理解するとともに持論を持つことを意識する	フィールドパートナー ふくしまリアリ代表 山口祐次氏 (予定)	・福島の震災発生前、震災発生当時、震災発生後の事実についての共通理解 ・自身が想定していない質問や意見への対応と、多様性の理解 ・受講生の知識・意見などを共有 ・触れづらいことも知識として会得していく	・福島のある日からいま 地震・津波 P4～9 原発事故 P10～13 避難 P14～17 P20～23 放射線基礎 P18～19 ・放射線副読本 放射線について知ろう P3～11 原子力発電所の事故と復興のあゆみ P12～14 風評被害や差別 P15～16 食べ物の安全性 P17～18

※第2回研修までに語り部原稿・メモの見直し

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第2回 9月27日 (土) (1日目) 双葉町産 業交流セン ター出発 9：30 (予定)	語り部案内に よるフィールド ワーク① (120分) 9：50～ 11:50 ※途中、昼食	福島県内の語り 部の活動内容を 実践の場で体験 し、その活動現 場を訪れる。また、 自分自身の経 験を語るために 必要なスキルや 伝えるべき震災 の実相について、 参加者の間で学 び合う。	語り部の話を聞いたうえで、地域の 現状を把握するため、震災現場を 訪れます。語り部の実体験に基づく 説明を聞きながら、語り部活動の 重要性について考えます。 ＜内容案＞ ①震災現場訪問 ②語り部による地域案内 ③現場訪問フィードバック	・フィールド ワーク① 中間貯蔵施 設 大熊未来塾 代表：木村 紀夫氏(予 定) ・バス移動中 (大熊～い わき) ネット ワーク会議会 員による案内 ・フィールド ワーク② いわき市薄磯 地区 いわき語り部 の会代表： 大谷慶一氏 (予定) ・バス移動中 (いわき～双 葉) ネット ワーク会議会 員による語り	・自身が発信すべきこ とを具現化することが できる。 ・自分事を相手に伝 え、共感を得ることが できる	・講師資料(講 師が準備の有 無を確認) ・フィールドワ ーク資料(現場案 内で普段使用 しているもの) ※第3回研修 までに自身の語 り部原稿素案 (概要)を見直 し、原稿案とし て作成
	語り部案内に よるフィールド ワーク② (60 分) 13:15～ 14:15					
	双葉町産 業交流セン ター 大会議室 (予定)		意見交換会 (45分) 15:45～ 16:30	フィールドワークを終え、実際の現場 を体験してみての感想や、語り部の 話す内容との違いや疑問等につい て、意見交換を行います。参加した 受講生の気づきや、自身の思いを 具現化するために必要なことにつ いて考えます。 ＜内容案＞ ①語り部との意見交換	意見交換 会：福島 大学准教 授 前川 直哉氏 (予定)	・自身の経験を価値 に変えるための気づき を得る
宿泊準備						

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第2回 9月28日 (日) (2日目) 双葉町産業交流センター 大会議室 (予定)	伝わりやすい話し方講座 (90分) 09:00～ 10:30	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法に気づくことができる。	話し方講師から、語り部として伝えたいことを、自分の言葉で表現する方法を習得します。 ＜内容案＞ 話し方講座、多様な伝え方	福島大学 助教 久保田彩乃氏 (予定)	・語りを自身の言葉で伝えることができる	・講師資料 (講師に準備の有無を確認)
	プレゼンテーションスキルアップ (180分) 10:45～ 14:45 ※途中60分昼食休憩	震災の経験や記憶を自身の言葉で伝える方法を身につけることができる。	原稿に沿って実演を行い、参加者同士の意見交換を行います。さらに、受講生のセルフチェック用に実演の動画撮影を行います。 ＜内容案＞ 受講者の実演と実演に関する意見交換	福島大学 助教 久保田彩乃氏 (予定)	・自分事を相手に伝え、共感を得ることができる	

※第3・4回研修までに発表の練習

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	到達目標	テキスト案
第3回 11月29日 (土) 双葉町産業交流センター (予定) ※希望者のみ参加	プレゼンテーションスキルアップ 2 (180分) 10:30～ 14:30 ※途中60分 昼食休憩	語り部自身が納得のいく語りを完成させるための余白を埋め、自分ごとの成果と進化およびその評価の向上を目指す。	語り部として、与えられた時間内に自身の想いを来場者に具体的に伝え、共感を得るための工夫やアピールの手法について、講師とともに学び合います。 ＜内容案＞ ①語り部プレゼンテーション ②受講生同士のスキルアップ	福島大学 准教授 前川 直哉氏 先輩語り部	・語りを通じ、来場者の共感や地域に対する想いの伝播が、自身で納得のいく反応を得ることができる。	・講師資料(講師が準備の有無を確認) ※第4回研修までに発表の練習

回	項 目	目 的	研修概要	講師案	備考
第4回 令和8年 2月7日 (土) 双葉町産業交流センター (予定)	成果発表 (120分) 10:00～ 12:00	これまでの講座での取組を活かしながら、震災語り部として、自身の思いを伝えることができる。	4～5グループに分かれてパフォーマンス実演を行います。(1グループ3～4人＋講師) ※講師は発表者ごとに評価と講評を行う	先輩語り部(東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議会長・副会長・会員)	発表の様子は記録動画に保存し、アーカイブ化のための材料とする。

修了式(2月開催の第2回東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議内)

ふくしま語り部ネットワーク会議の課題と対応（案）

1 県外派遣者の決定方法

＜現状＞

- ・主催者の希望に沿った派遣を行うと、派遣者・回数に偏りが生じる。
- ・伝承者育成講座修了者・会員登録者の活動機会を確保する必要がある。
- ・事務局（県・JTB）では、適当な方を判断することが難しい。

＜今後の対応案＞

- (1) 案内パンフレットは、個人ではなく団体を紹介するものとしてはどうか。
- (2) 申し込みの際の希望も、個人ではなく団体を記載いただくのはどうか。
- (3) 誰を派遣するかは、引き受ける団体が実力や適性を勘案して決定する。
(団体内において、特定の人に偏らず、新しい人も行けるよう配慮する。)

2 ネットワーク会議の会員登録

＜現状＞

- ・伝承者育成講座の修了者増に伴い、個人での会員登録が増えている。
- ・「語り部団体のネットワーク化」という会議の本来の趣旨からずれてきている。
- ・会員同士のバランスが失われ、事務局の会員把握、連絡調整が困難になる。

＜今後の対応案＞

会員登録は団体のみとしてはどうか。（代表者が会議に出席）

※2名以上で新たなグループを立ち上げることも可能とする。（代表者・事務局が必要）

3 伝承者育成講座修了者が県外派遣の対象となる仕組み

＜現状＞

- ・県外での活動を期待し伝承者育成講座を修了しても、自分への申し込みがされず、結果的に県外に派遣されない人が多数出てくる可能性がある。
- ・個人ごとの県外派遣回数に差が生じ、不満につながる可能性がある。

＜今後の対応案＞

- (1) 伝承者育成講座の修了者は、①修了証書の授与に加え、②（個人グループの団体も含め）どこかの団体に所属できることをメリットとする。
（又は、どこかの団体に登録することを、受講の条件とする案も。）
- (2) 県外派遣の登録・派遣は、団体を経由して行うこととする。（上記1）
- (3) 団体に所属することでネットワーク会議に間接的に参画する。（上記2）

4 次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム（会議）

＜現状＞

プロジェクトチームは、ネットワーク会議の人材育成に関する事項について検討を行うが、伝承者育成プログラムは4年目に入り、内容が既に充実している。

(別紙)

＜今後の対応案＞

- (1) ネットワーク会議の全般的な在り方を検討する会としてはどうか。

次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム設置要綱

(設置)

第1条 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議第6条の規定に基づき、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議（以下「ネットワーク会議」という。）に次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム（以下「プロジェクトチーム」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 プロジェクトチームは、ネットワーク会議の人材育成に関する事項について検討し、検討結果をネットワーク会議に報告するものとする。

(組織)

第3条 プロジェクトチームは、委員7名以内で組織する。

2 委員は、ネットワーク会議において指名する。

3 委員の任期は、1年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(部会長及び副部会長)

第4条 プロジェクトチームに、座長を置く。

2 座長は、委員の互選により定める。

(会議)

第5条 プロジェクトチームの会議は、ネットワーク会議会長が招集する。

(補則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、プロジェクトチームの会議の運営に関し必要な事項は、ネットワーク会議において定める。

附 則

この要綱は、令和4年12月9日から施行する。

**東日本大震災・原子力災害
ふくしま語り部ネットワーク会議設置要綱**

(設置目的)

第1条 東日本大震災・原子力災害の記憶と教訓を後世へ伝えていくため、県内の語り部団体等が連携し、持続可能な震災伝承の体制を構築することを目的として、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議（以下「ネットワーク会議」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 ネットワーク会議は、次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) 語り部団体の連携促進に関すること。
- (2) 語り部の人材育成に関すること。
- (3) 語り部の県外等への派遣に関すること。
- (4) その他ネットワーク会議の目的を達成するために、会長が必要と認める事項。

(組織)

第3条 ネットワーク会議は、第1条の目的に賛同する県内語り部の団体を代表する者等（以下「委員」という。）をもって組織する。

- 2 委員は、無報酬とする。
- 3 ネットワーク会議に、会長及び副会長1人を置き、委員の互選により定める。
- 4 会長及び副会長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(会長及び副会長)

第4条 会長は、ネットワーク会議の業務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 会長は、ネットワーク会議を招集し、年1回以上開催するものとする。

- 2 会長は、ネットワーク会議を招集しようとするときは、書面により会議の日時、場所及び議題をあらかじめ委員に通知するものとする。
- 3 会長は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見・助言を求めることができる。
- 4 会議は公開で行う。ただし、個人のプライバシー保護及び法令等による公開禁止に該当する場合、非公開とすることができる。
- 5 会議の資料及び議事録については、原則として公開する。ただし、個人のプライバシー保護及び法令等による公開禁止に該当する場合、その全部又は一部を非公開とすることができる。

(部会)

第6条 ネットワーク会議に、部会を設置することができる。

2 部会の組織及び運営については、別に定める。

(事務局)

第7条 ネットワーク会議の事務局を、福島県文化スポーツ局生涯学習課に置き、生涯学習課長を事務局長とする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、ネットワーク会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要綱は、令和4年11月6日から施行する。